

## 葬儀を捉える「視点」について

### 1、はじめに

本願寺教学伝道研究所では現在、全国紙四紙（読売・朝日・毎日・産経）の東京版から、宗教に関係する記事の情報を収集しています。今回は、収集した記事のうち、葬儀に関するものに焦点をあて、その特質などを紹介します。

### 2、マスメディアが

#### 葬儀を捉える「視点」

ニュースメディアが葬儀に関する事柄を取り扱う際、幾つかの視点に基づいて記事を組み立てています。葬儀に関連する事柄は主として、(1)「消費者」、(2)「対置」、(3)「道理」という視点に基づいて、解釈・伝達されているようです。

以下、それぞれの視点の内容や特徴について、見てみましょう。

まず、(1)「消費者」の視点からの記述で頻繁ひんぱんに登場するのは、葬儀費用の問題

です。特に、日本消費者協会や国民生活センターなどの調査による「平均費用」の数字が繰り返し紹介されています。金額の「明朗さ」や「リーズナブル」な点が強調されるのも目につきます。

また、この視点からの記述では、葬祭業者による「自分らしい」葬儀の提示が、「顧客志向」的なものとして示されるのも特徴的です。

(2)「対置」の視点からの記述では、従来の葬儀／新たな形式の葬儀といった「対置」が目立ちます。このように、ものごとを対置して、対立的に取り扱うことは、ニュースではよく見られることです。

ただし、葬儀に関する記事ではもっぱら、新たな形式の葬儀に焦点が当てられており、従来の形式と新たな形式の両者が明確に対比されることはほとんどありません。従来の葬儀は、その新たな形式によって補おぎなわれるべき「欠点」をもつものとして暗示されることがほとんどです。例えば、近年の新たな葬儀の形とし

て家族葬が取り上げられるときには、しばしば、「故人とゆっくりお別れできる」と紹介されますが、こうした記述は、従来の葬儀では「慌<sup>あわただ</sup>しくて、故人とゆっくりお別れできない」ことを含意している場合が少なくありません。

なお、お寺／檀家を「対置」して葬儀に関する事柄を扱う記事は、極めて稀<sup>まれ</sup>でした。

(3)「道理」の視点、すなわち、「葬儀がどうあるべきか」という視点からの記述については、記者に、「客観性を保つ」という意識があるためか、記事中で記者の意見が直接表明されることはほとんどありません。これは、他の事柄に関する記事でも同様であり、こうした点については、一般的に、専門家などによるコメントが掲載されます。葬儀に関する記事の場合は、しばしば、宗教学者、葬送ジャーナリスト、葬祭業者などのコメントが掲載されます。上に挙げたような人々に比べると、宗教者のコメントが掲載されることは少数にとどまっています。

### 3、葬儀報道と僧侶の「視点」

ここまで、葬儀に関する報道記事の特徴を見てきました。一方、僧侶がこうした報道に接するとき、どういった視点から捉<sup>とら</sup>えているでしょうか。

多くの僧侶にとつて、「葬儀」とは、これまでにお付き合いのあつた檀家さんの葬儀です。僧侶にとつては、檀家さんとの日常の関係が重要であり、葬儀というのは、ほとんどの場合、そうした日頃からの寺檀関係の一部として捉<sup>とら</sup>えられています。

ところが、葬儀に関する記事を構成する視点のいずれにおいても、お寺と檀家との関係に焦点が当てられることがほとんどないことに気付かされます。僧侶は、檀家との関係を意識していればいるほど、葬儀に関する記事に、より強い違和感を覚えるかもしれません。

しかし、首都圏では、お寺との関係を持たない人への開教が大きな課題となつ

ているように、現在、多くの方が、伝統的な檀家制度の枠<sup>わ</sup>の外にあります。それゆえ、葬儀に関する記事が寺檀関係に目を向けていなくても、そうした人々が違和感を覚えることは少ないのではないのでしょうか。

### 4、おわりに

マスメディアの流す情報の影響がどの程度のものであるかということについては、諸説あります。しかし、こうした視点に従つた記事が繰り返し掲載されることにより、檀家制度の枠外にいる人にとどまらず、その枠内にいる人々までも、記事に掲載されている視点こそが重要であると見なすようになってくるかもしれません。一見、伝道の現場からは乖<sup>か</sup>離<sup>り</sup>したように見える記事であっても、長期的に見れば、大きな影響を及ぼす可能性は否定できないのです。

ここで取り上げた葬儀に関する報道もふくめ、日本の伝統仏教に関する報道の

調査・研究は、ほとんどなされていません。東京支所では今後とも、記事情報の収集・分析を行い、その成果をみなさまに提供していく予定です。<sup>(3)</sup>

(東京支所研究員 江田昭道)

〈1〉葬儀に関しては、お寺／檀家を対置するような記事はほとんどありませんが、お墓の問題に関しては、両者を対置して取り上げる場合があります。例えば、二〇一〇年三月二十二日付、産経朝刊二十三面（家族の縁つなく改葬）を参照。

〈2〉拙稿「ニュース記事の中の『宗教』」(『宗教と現代がわかる本2010』平凡社、二〇一〇年)でも紹介した通り、東京版と関西版を比較すると、関西版の方が、宗教者や宗教団体を多く取り上げる傾向があるようです。本稿の考察は、冒頭に断った通り、東京版の紙面にもとづいています。

〈3〉東京支所ではこれまでに、注2で言及している「ニュース記事の中の『宗教』」のほか、拙稿「ニュースと『宗教』」(『あなかしこ』本願寺教学伝道研究所ニューズレター) 第二号、二〇一〇年)や、江田昭道・網代豊和・伊

東昌彦・大江宏玄、「2006年後半の宗教報道を振り返る」(『浄土真宗総合研究』第三号、二〇〇八年)といった原稿を発表しています。

また、東京支所では、宗務首都圏センターの協力のもと、「新聞情報メルマガジン」を週四回発行し、宗教に関連する新聞記事の情報をみなさまにお届けしております。詳しくは、本誌九二ページ「宗務連絡コーナー」に掲載されている「『新聞情報メルマガジン』について」をご覧ください。

## 教学伝道研究センター 編纂発行物のご案内

■『浄土真宗本願寺派葬儀規範』解説  
—— 浄土真宗の葬送儀礼 ——



二〇〇九年七月に刊行された『葬儀規範』を詳細に解説した本書は、本願寺出版社より好評発売中。(税込840円)

葬儀の意義から年忌の由来まで、葬送儀礼のすべてがわかります。

お問い合わせは、本願寺出版社(フリーダイヤル0120-464-583)まで。

■仏教書レビューブックレット vol.1



本願寺教学伝道研究所では二〇〇八年より、ホームページ上に「仏教書レビュー」というコーナーを開設し、仏教に関する書籍の書評・紹介を幅広く行っております。昨年一月には読売新聞の書評欄でご紹介いただくなど、おかげをもちまして好評をいただいております。

この度、その「仏教書レビュー」の内容をもとにしたブックレット(非売品)を作成いたしました。ブックレットには、ホームページ上に掲載された書評・紹介文のほか、「あの人の本棚」「ふじまるの絶版禁止」など、ブックレット独自の企画も掲載されております。現在、専門書店などにおいて頒布中です。

お問い合わせは、教学伝道研究センター(075-371-9244)まで